

令和2年度 事業成果報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

1. 地雷処理支援事業成果実績

カンボジア政府機関のCMAC(カンボジア地雷対策センター)と共同して事業を実施し、村人参加型の地雷探知チーム5名により、バタンバン州のカムリエン郡、プノンプラ郡、サンパウルー郡、及びパイリン州内の5村8箇所地雷原を探知し、約29ヘクタール(累計約261ヘクタール)の農地を安全にするとともに、活動地域の村人からの情報による回収活動、危険回避の啓蒙活動を行った。

詳細は、以下である。() 数字は2011年8月からの累計

- (1) 処理した地雷数 : 対人地雷95個(732個) 対戦車地雷20個(208個)
- (2) 処理した不発弾 : 211個(1467個)
- (3) 処理した面積 : 290,375平方メートル(2,612,595平方メートル)

2. 地域復興支援事業成果実績

(1) 相互の友好交流を促進する事業

2010年4月、カンボジア王国バタンバン州のプラチャン州知事が高山の紹介で愛媛県を訪問され、加戸守行知事を表敬。プラチャン州知事は、「州は、住民の大半が農民で、現在、農業発展を練っているところだ。ぜひ愛媛県と姉妹都市協定を結んで、技術指導などをいただきたい」と話され、加戸知事は、「草の根から交流関係はスタートするもの。辞令はないが、高山さんを県のバタンバン大使と考えている」と応じられた。更に、加戸知事や中村時広松山市長ら約180人が出席したパーティーで、プラチャン州知事は「愛媛県とバタンバンの結びつきは、歴史的な好機。経済、農業、観光などの交流が両市民の生活をより豊かにするでしょう」と呼びかけられた。(朝日新聞記事抜粋)更に、2017年8月、カンボジア王国上級国会議員のプラチャン閣下、バタンバン州のソッコ副知事が、愛媛県の中村時広知事を訪問され、「高山さんのおかげで愛媛との友好関係が深まり、今後も発展させたい」とあいさつされた。中村知事は、「カンボジアで課題になっている道路補修について県内企業が事業を進めている。人材や産業の交流を積み重ねることができれば」と話された。

このような地雷処理活動から派生した諸活動の信頼関係構築の経緯が、愛媛県は2人の知事、バタンバン州は3人の知事が受け継ぎ、約10年の時を経て、2020年1月愛媛県の中村知事がバタンバン州を訪問し、「カンボジア王国バタンバン州及び日本国愛媛県間における友好交流・協力活動の構築に関する覚書」の調印締結につながった。

10年越しの悲願であった調印締結は、その後の具体的な成果として、愛媛県農業大学校で使用していた大型トラクターなどが愛媛県からバタンバン州にご寄贈頂くことになり、中村知事とヌン・ラタナ州知事のウェブ会談が行われた。その他、民間企業のアイテムえひめから使用済みの机や椅子を頂くことになり、40フィートのコンテナでカンボジア現地に送られ、令和3年5月末に現地に到着する予定である。更に、カンボジア現地までの輸送費は、愛媛県の産業政策課とIMCCD共同の呼びかけで、民間企業などからご寄付が寄せられた。これらの報道は、愛媛県下の新聞、テレビで大々的に報じられた。その他、加工産業の技術提供など愛媛県下にとどまらず、秋田県や広

島県の企業からも協力の申し出が寄せられ、正に官民一体となった相互の友好交流が促進されている。

(2) インフラ整備を支援する事業

ア 井戸掘削

井戸6基（No. 48～No. 53）完成。

イ 車いす

今期はなし

ウ ゴミゼロ運動

タサエンで活動を開始して以来、村のゴミを「ゼロ」にする運動を継続して行っている。最近では、井戸や学校建設時に住民に「ゴミをゼロにする意識」を要望し、それが約束された場合にのみ、建設を約束することになっている。ハードをプレゼントするだけでなく、大切に使ったり、壊れたら修理したり、周辺のゴミを拾うなど「管理」というソフトの定着が実現するように啓蒙啓発している。

更に、カンボジアの農村部では、ゴミ処理の施設がなく、村民の家で各々が燃えるものは庭や畑で燃やして処理していて、ビン、缶、ペットボトル、不燃物は処理する方法がなく、一部、ペットボトルやビン、金属類は業者が回収している。IMCCDとしてできるアドバイスをやっていくことにしている。

(3) 農業の発展を支援する事業

クマエ蒸留会社（社長：ホン・ソックミエン）に事業委託をして、約10ヘクタールの畑に農産物である、キャッサバ芋、さとうきび、バナナ、マンゴー、ジャックフルーツ、モリンガ、シトロネラ、パッションフルーツ、アボカド、コーヒー、カカオ、パパイヤなどを植えて、無農薬で管理している。

カンボジアは、州、郡レベルで農事試験場のような制度がないため、農業は、それぞれ村人が近隣の知り合いから聞いた知識や習慣だけで農業を営んでいる。クマエ蒸留会社の管理する畑に植えている農作物、果物類は、農事試験場的な役割も担っており、土壤に適した農作物や果物は、村人にその情報を伝えて生育指導をしている。農業運営に欠かせないものは、水の確保。次年度は、乾季に水が不足しないように、灌漑用水池を構築することを検討中である。

(4) 地場産業の発展を支援する事業

この事業も、クマエ蒸留会社に委託して活動している。地場産業の発展は、農業国であるカンボジアの自立発展に直結するものであり、①地雷・不発弾を処理⇒②安全な田畑を確保⇒③無農薬で農作物を植え生育する⇒④収穫して加工製品を生産する⇒⑤マーケティングで国内外に販売流通⇒⑥収益を得る⇒⑦IMCCDの活動に還元依頼する⇒⑧村人に情報を与え農作物を生育する⇒⑨地場産業の発展を促進する⇒⑩カンボジアの自立復興⇒⑪平和構築理念の啓蒙啓発、までが目標であるが、現在は④の収穫、加工まではできるようになった。⑤以降マーケティング販売流通に日本の専門家のご指導を得ながらチャレンジ中である。

地雷除去後の畑には、キャッサバ芋などが植えられるが、芋は安値で隣国タイに売ら

れていたもので、何とか村人の収入を上げようと、この芋に付加価値を付けることを模索、芋焼酎の開発を始めた。松山市の酒造メーカーで当会顧問の篠原会長のアドバイスを受け、試行錯誤で開発したところ、大変美味しいと評される商品が出来た。元バタンバン州知事プラチャン閣下によって「ソラクマエ（カンボジアの酒）」と命名され、現在カンボジアのプノンペン空港やシエムリアップ空港、世界の免税店でもあるTギャラリアやカンボジアの誇れるお土産品を販売しているアメージングカンボジア、その他カンボジア国内で販売されている。また、愛媛県今治市にある㈱今治デパート様が輸入して日本国内で販売している。更に、カンボジア産米で焼酎を製造し、またサトウキビでラム酒の製造をして㈱今治デパートの四村ショッパーズで販売している。更には、フランスのリオンで開催される展示会に出展を予定していたが今回のコロナ事情で延期になっている。

また、村民の畑で栽培されているレモングラスを蒸留して精油を採取したところ、品質のいいレモングラスオイルの製品化に成功した。シトロネラやモリंगाも日本の技術提供を受けて製品化の方向で進んでいる。今後、日本などにも輸出する予定。そのための活動費用の投資として、上級国会議員であるプラチャン閣下、バタンバン州のラタナ州知事、前バタンバン州副知事のソッコン氏、実業家のポッポイ氏に援助して頂いている。農産物の加工製品開発については、愛媛の(有)進藤重晴商店様、大三島果汁工業(株)様、KS西日本(有)様、広島(株)ビバ様、秋田(株)OGURA様など日本の皆さんにも技術協力などご支援を頂いている。

(5) 日本企業の誘致を支援する事業

2008年に1社(株)JPC)、2011年に2社(株)スギウラ、やまと印刷(株)、2014年に1社(株)キンセイ)、計4社、四国中央市の紙加工会社を活動地の村に誘致した。更にカンボジアで活動している松山市、伊予市、今治市の会社の支援を行っている。昨年1月に愛媛県とバタンバン州の友好交流、協力活動の覚書に調印されたことに伴い、技術協力や企業協力活動が活発になるように模索しながら実施していくことになる。

(6) 教育環境の発展を支援する事業

学校建設は、今期はなし。

前年度期に2校。No. 15 広島(有)の方からのご寄贈でサンパウルーン郡の村に小学校を、No. 16 愛媛(有)の企業からサンパウルーン郡の村に小学校をご寄贈頂いたので、学校を大切に使うことや、ゴミをなくすことなどソフト面の定着を定期的に訪問し啓蒙啓発している。

(7) 人材の育成を支援する事業

ア 留学生・技能実習生の支援

2013年11月タサエン出身のスロ・リスラエンを松山に招致し、2014年4月から松山の聖カタリナ女子高等学校に留学させ、2017年3月無事卒業した。2017年4月から松山東雲女子大学に進学。今期3月で卒業し松山市内の企業に就職した。

2017年11月からIMCCD日本語学校の生徒4名を今治市内のスーパーマーケットで技能実習生として実習させた。その後、内子町の(株)キドフーズで3名が技能実習中であったが今期で任期が終了し、カンボジアに帰国した。

宇和島市吉田町の会社に技能実習生として来ているカンボジア人女性18名について、会社と連携しながら服務指導などアドバイスを実施している。

イ IMCCD日本語学校

村の子供たちに日本語とパソコンを教え、将来、日本企業への就職や、技能実習生として日本で実習しながら自立発展する機会を提供している。また通訳など日本語能力を生かした職業に就けるように支援している。生徒のうちこれまでに、日本への留学2名、プノンペン大学の日本語学科へ7名、プノンペンの日本語学校へ7名が進学している。更に八戸市の高校に短期留学生としてこれまで4名を受け入れていただいた。

日本語学校の現在の生徒数は、日本語教室が約40名、パソコン教室が約10名である。2014年5月には、カンボジア政府から「日本語学校」として認定された。先生はIMCCD日本語学校の卒業生で社会人になっている女性、及びIMCCD日本語学校出身の高校生2名、パソコン教室は男性1名で運営している。今期は、コロナの影響で、IMCCD日本語学校を含めたカンボジア全土の休校が続いている。

(8) 講演、写真パネル展などを通じ平和構築を啓発する事業

ア 日本での講演活動

今期は、コロナの影響で講演活動は、直接現地で行った場合とZoomなどオンライン会議ソフトを駆使して行った。小学校、中学校、大学、ロータリークラブ、ライオンズクラブなどでの講演を14回、少人数での交流会を6回、計20回実施した。(累計435回)最近では、テレビ、新聞などの報道が全国的になり、講演なども全国的な活動になってきている。2019年6月13日フジテレビから全国放送された「奇跡体験アンビリバーボー」への出演の反響が顕著であり、その影響は現在も大きい。

イ 写真パネル展示

IMCCD愛知支部主催の岡崎市でのイベント、兵庫支部が実施したイベントがあるが、今期はコロナの影響で、中止されたり、オンラインでの参加へと変更となった。

ウ 日本人のタサエン地区など訪問見学

今期は、コロナの影響で訪問者は、殆どなく、17名(累計1045名)であった。

(9) 広報に関する事業

ア リーフレットを逐次に活用するとともに、機関紙「カンボジア便り」を11月、5月に作成、配布し広く支援者などに活動を広報している。

更に、一時帰国時にテレビ、ラジオ、新聞などマスメディアを利用した広報活動の他Zoomを利用した講演、直接現地に行き交流会などを実施した。

講演会や交流会では、白瀧禎(てい)理事写真提供、橋本順子監事により作成された、動画「平和の種になりたい」を放映し、活動を音楽と映像でも広報している。

また、愛媛県内には八幡浜分会、新居浜分会、今治分会、四国中央分会、愛媛県以外では群馬支部、広島支部、東京支部、兵庫支部、愛知支部、宮崎支部、山口支部が設置されているが、新たに京都支部、奈良支部が設置された。海外では、カンボジアのバットアンバン支部、シエムリアップ支部、タイにバンコク支部を設置している。

イ 表彰等
今期はなし

著書 『地雷処理という仕事』—筑摩書房— 初版8000部 重版800部
『平和の種になりたい』—IMCCD—
動画 『平和の種になりたい』—IMCCD—

以上